

平成21年度 第3回 池田市図書館協議会会議録要録

<日 時> 平成22年2月28日(日) 午前10時～正午

<場 所> 池田市立図書館2階会議室

<出席者> (委員) たつみ会長、丸山副会長、尾上委員、彭委員、雨堤委員、牛島委員、村上委員
(事務局) 田淵教育部長、増田教育部次長、馬渡生涯学習推進室長、塩川図書館長、上保石橋プラザ館長、他図書館職員3名

<傍聴者> なし

<審議案件> 1. 池田市立図書館事業計画(平成23年度～34年度)について
2. 池田市立図書館事業計画(平成22年度)について

<資 料> 1. 出席者名簿
2. 池田市立図書館事業計画(平成23年度～平成34年度)
3. 池田市立図書館事業計画(平成22年度)
4. 池田市総合計画 部門別施策シート第6回福祉教育部会(1月28日開催)
5. 図書館ニュース3月号
6. ブックリスト『この本あの本どんな本2』

.....
事務局：時間になりましたので、第3回図書館協議会を開催させていただきます。まず、初めに田淵教育部長よりご挨拶申し上げます。

<田淵部長挨拶>

それでは、ここから議題に移りますが、議事進行は会長にお願いいたします。

会長：では最初に図書館の事業計画について説明をお願いします。

<事務局より、平成23年度～平成34年度の短期・中期・長期計画について説明>

会長：図書館の事業計画は総合計画とも密接に関係していると思いますので、ここで総合計画の進捗状況について伺いたいと思います。

事務局：現在池田市の第6次総合計画(平成23年度から34年度まで)の策定作業が進んでおります。3月に全体会を実施後、パブリックコメントを募集、5月初旬に統計、6月議会にかけ、

7～8月に集中審議、9月議会で承認ということになります。

この中で、教育に関しましては、「学校教育の充実」「学校・家庭・地域をつなぐ地域教育の振興」「社会教育の振興」という3本柱で考えております。平成20年8月に前期図書館協議会で出していただいた答申については、教育委員会としましても非常に重く受け止めており、この答申を市の総合計画に組み入れていくというご提言もございましたが、現在市のホームページで公開されている形となっております。図書館の部分が少ないのではないかとのご意見もお持ちになるのではないかと思います。この総合計画は市全体の大きな計画ですので、その中に図書館等個々の細かいところまで書き込むことがその趣旨に合うのかという意見もございました。ただ、この総合計画の中の社会教育のエリアで、他の社会教育施設と比較し図書館を特出しした形で非常に踏み込んだ記述になっていると認識しております。今後、総合計画に基づき平成23年度から実施計画も策定されますが、これは社会情勢の変化に対応していくために4年毎に見直されます。教育委員会としてはこの中で、あるいは来年度策定予定の教育振興計画の中で図書館のことを書き込んでいけるのではないかと考えております。

また、園芸高校の移転に伴う跡地の活用に関し、池田市プランを策定しております。その中で、教育委員会として、公共図書館あるいは地域開放型のコミュニティ図書館の可能性を考えております。

このほかにも、答申につきましては市上層部に働きかけをしており、その成果もあってか、図書館の空調設備の改善や、キッズコーナーの設置、1階のカウンター移設、受変電設備工事、池田駅前サービスポイントの開設等、答申でいただいたものが活かされているのではないかと考えております。今後もいただいた答申を実現できるタイミングがあれば、計画の前倒しであっても実行していく考えであります。

これらの状況を踏まえたものが先ほどの「図書館事業計画」ですので、総合計画・教育振興計画との整合性はご理解いただいてご検討いただけたらと考えます。この計画は総合計画に合わせ平成23年度からのものであり、来年度については別立てで平成22年度事業計画を作っております。

会長：ここで皆様のご意見を聴き、それから話を進めていきたいと思っております。

委員：今後の事業についてですが、いろいろなことが書かれていますが、現状の職員数でこれだけのことができるのかと思いつながりながら聞いていました。

まず障がい者サービスですが、宅配サービスについてPRはどうなっているのでしょうか。本当に障がい者の方が求めるサービスは何なのか、図書館だけで決めるのではなく、社会福祉協議会に所属している方たちの声を聞きながら、できることからすすめてはどうでしょうか。次に、学校図書館との連携ですが、学校図書館司書だけでは事業計画を進めることは無理なので、是非とも司書教諭とも協力して行ってほしいと思います。また、各学校にはボランティアやPTAも関わっているので、そちらの方とも協力が必要でしょう。幼稚園にもボランティアに携わっている方もいますのでこちらも同様をお願いしたいと思います。それから、この計画の中にあいアイブックが挙げられていませんが、どうなっているのでしょうか。

委員：現在の図書館はかなり老朽化しています。長期計画の視野の中に、以前から市役所周辺に図書館をとという意見も出ていますが、長期計画の中で図書館新設や移転、また、資料館をどこかへ移転し、大改修するといったようなことは考えられないのですか。また、快適な図書館創りという意味で、喫茶コーナーや自習室の児童室への転用など、施設面の充実に力を入れていってほしいし、図書館を市民サービスの拠点という見方からも考えてほしいですね。

委員：市役所に隣接したところに図書館を置くところが多いですが、そういう可能性について検討されないのでしょうか。「市民がわくわくしながら集い、出会う図書館」とありますが、これは図書館として大事なところではないかと思うのですが、そのための事業が非常に少ないと思います。資料面では、映像資料の充実も重視してほしいですね。それから、レファレンスの充実は大事ですね。今はパソコンで調べることが増えていると思いますが、ただその使い方が分からない人もいますので、その利用指導も必要だと思われます。これはリタイヤした60歳以上の世代の楽しみを増やすことにもなりますね。また、高齢者のためのプログラムの充実、たとえば高齢者が交流できる場の提供なども考えてはどうですか。

委員：移動図書館ですが、短期計画の中に幼稚園や保育園への巡回がありますが、図書館が決めるだけでなく、自治会等住民の要望があるところを巡回してはどうでしょうか。相互の思いがあると利用者が増えるのではないかと感じます。通常の運行以外に2つの学校に出向いていますが、週1回学校の地域開放時に行ってはどうか。学校を拠点として地域の方が利用できるし、小学校や中学校をサービスの拠点とする方が、学校としても地域の方が来られる方が安心して開放できるのではないのでしょうか。

事務局：学校の開放時に移動図書館の巡回をと考えたこともありますが、一般の方も多く来られるので、そのことが反対に移動図書館のスペース確保が難しいといったこともあります。学校には学校図書館がありますので、学校図書館を地域の方も利用できるような連携を考えていきたいという思いがありますが、これにも様々な問題点があるかと思います。

委員：学校を開くということは、それに伴うデメリットも考えなくてはなりません。学校としましては子どもたちの安全を最優先に考えなくてはなりません。もうひとつ、学校サイドから言わせていただくと、学校図書館の蔵書は少なく、図書費は3市2町の中で最低水準にあります。学校の蔵書は不足しているという現状があります。学校図書館の充実は学校や教育委員会が考えなくてはならないことではありますが、公共図書館との連携が必要かと思います。図書費が多いところでもやっていることでして、たとえば、豊中では団体貸出の場合、学校が新刊本を選定したものを図書館で購入しそれをそのまま学校図書館に置く、つまりこれは学校図書館がほしい本を揃えていただくなど、図書館の支援が必要です。また、学校単位だけではなく、クラス貸出をして本を回していくなど、予算の関係上難しいとは思いますが、先進市の例もありますので、そういったことも考えていただくと学校側としては大変ありがたいことだと思います。もう一点、学校サイドの問題ですが、条件整備ができていない、つまり図書館を利用していくカリキュラムそのものができていない、例えば年間を通しての指導計画が学校単位でまちまちで、そういう計画を持たないところもあるといっ

た現状があります。このあたりの条件整備を図っていかなくてはならないと考えています。その上で、学校との連携を図っていただきたいと思います。

委員：以前市長との鼎談の中で市長がおっしゃっていましたが、図書館と学校図書館との本の運搬に関して、青パトとの連携はどうなっていますか。それから図書館の1階と2階の本の配置替えのことで、その後の反響はどうでしょうか。

会長：学校図書館との連携については後で引き続き協議していきたいと思いますが、まずそれ以外の本の配置替えのことについて、その後の反響はどうですか。

事務局：本の配置替えに関しましては、今まで慣れておられる方にとっては戸惑いもありましたが、徐々に慣れてこられたようですし、同じ分野の本が1カ所に集まったことで本を探しやすくなったと概ね好評です。利用者にとりましては勿論ですが、バックヤードを設けることができたのも私共にとっても良かったと思います。ただ、1点問題があるとすれば、1階に閲覧スペースがないということです。文学関係の調べものをされる方にとりましては、本を2階まで持って上がらなくてはならず、このことに関して改善を要望する声も上がっています。今後机の配置等考えていきたいと考えております。

委員：市役所の空きスペースはどうなっていますか。

事務局：本庁 今後水道部局が移動するというごさいまして、また合同庁舎も出て行っているところもありますので、今後どうするか考えているところです。教育委員会としましては1フロアだけないか働きかけをしています。相談機能を重視した教育センター的なものを置いてはどうかと考えています。

施設につきましては、公民館も老朽化しており、バリアフリーの問題もあり、建替えるか改修するかという問題もあります。勤労者センターも、現在社会教育課の市史編纂の業務が一段落したときにどうするかというのがひとつ。そういった市全体の施設の展開の中で探していくという方法がひとつありますし、新たな展開がきたときに図書館をという話がでてくる可能性もあります。可能性については今後新たな状況の展開の中で模索検討するといったことになろうかと思いますが、計画上は施設の充実を考える中で図書館のこともないといけな、また施設の充実とともにネットワーク化を図るというのも大きな課題であると考えます。

会長：図書館ここにありきという線上にやはり新設ということをして市の行政本体が忘れないようにすることに繋がると思うのですが、そのうちのひとつが先ほどから出ています学校図書館との連携があります。この問題が少しでも前に進んでいくよう考えていかなくてはならないと思いますが、西宮市で学校との連携がうまくいっている事例があります。5年くらいかかって成し遂げたそうですが、この資料を提供しますので参考にされたら良いかと思います。

委員：小学校の図書館を開放することはできないのでしょうか。ウィークデイはセキュリティの問題もありますが、日曜日だけ開放するのはどうですか。学校が管理するのは大変なので、地

地域のボランティアで学校図書館を活用する方法はないでしょうか。地域における情報センターとして学校をもう少し活用できないか、そしてボランティアが運営したり、元気なシニアボランティアを活用してはどうかと思います。いろいろな機能を学校の中に加え、地域のみんなで学校を支え、地域の図書館として学校を活用していけないか、それが定着すると、地域の人が学校を利用する頻度が高まる。その中に図書館があるという位置付けができるのではないかと思います。

委員：学校図書館と市立図書館分館とが共存しているといった市川市立図書館の例もあります。いろいろな問題をクリアしなければ到達できないことではありますが、そうすることによって、ある程度蔵書の問題も解決できる部分もあると思います。そういうところも視野に入れ、まずはサービスポイントのところから始めて少しずつ進めていけないかと考えています。安全上の問題は絶対条件で、そこをクリアしないといけません。

事務局：社会教育からしかけるか、ただ学校サイドも意識を変える必要があります。それを支える地域コミュニティができ、学校教育と社会教育と地域コミュニティを3本柱として、これから取り組んでいく課題であると考えます。教育委員会の機構も学校教育を推進する部門と生涯学習を推進する部門と、それを繋いでいく政策課ができます。

会長： それでは、時間もせまっていますので、次の議題である平成22年度の事業計画に移りたいと思いますが、事務局より説明をお願いします。

<事務局より平成22年度事業計画について説明>

事務局：事業としまして、ここにたくさん挙げておりますが、まず学校図書館との連携の強化を考えております。この4月から学校図書館の視察をし、実際に学校図書館の状況をふまえ、その中で学校図書館司書及び司書教諭と図書館の蓄積してきたノウハウを相互に活用できないか、そしてその上で、さらに図書館ガイダンスなり調べ学習なり、実際に図書館としてすべきことを考えていきたいと思っております。もうひとつは障がい者サービスの充実です。制度設計にあたっては関係各位と協議しながらやっていきたいと考えておりますが、具体的には、来館が困難な方への宅配サービスを計画しております。その他、市民から募集するおすすめ本のブックリスト等を計画しております。

会長：何かご意見等ございますか？

委員：図書館から学校側への働きかけがあると、学校側の意識も変わっていくと思っておりますので、是非今後もそういった活動を続けていってほしいと思っております。

会長： それでは、時間もまいりましたのでこれで終わりたいと思っております。次回は7月25日(日)に開催いたしますので、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。